

## ◆ 部屋のカラーコーディネート

家づくりをする時に壁や床の色に迷われる方は多くいらっしゃいます。理想のお部屋づくりをするためには、まずどんなテーマ・イメージにしたいのかを決める事が大切です。

### 《主なお部屋のイメージの例》

#### ・ナチュラルスタイル

自然の風合いを活かし、部屋全体を白やベージュを基調とした明るめのコーディネート



#### ・モダンスタイル

まるでホテルの一室のような落ち着いたある洗練された空間 モノトーンで統一し、インテリアもシンプルなもの構成することが多いコーディネート



#### ・カジュアルスタイル

アクセントからなる明るいカラーを組み合わせ、流行や好きなものを取り入れいくラフな雰囲気なコーディネート



上記のスタイル以外にも、様々な種類がありますので、ご自身の好きなスタイルを探してみてもはいかがでしょうか。



追作りたい部屋のイメージを決めたら、次にベースカラーを選択していきます。ベースカラーとは、壁や床といった大きな面積を占めるものの色のことです。

## 空間によって色の考え方は変わります。

段落リビングダイニングや水まわり、寝室など、空間の役割によってカラーコーディネートのお考え方は変わります。お掃除のしやすさなども配慮しながら、色を検討していきましょう。

### ■ リビング・ダイニングルーム

明るいベージュやナチュラルなカラーを選択することで統一感を出すことができます。

ベースカラーはお部屋が狭く見えない明るめのカラーがおすすめです。



### ■ 洗面台・水回り

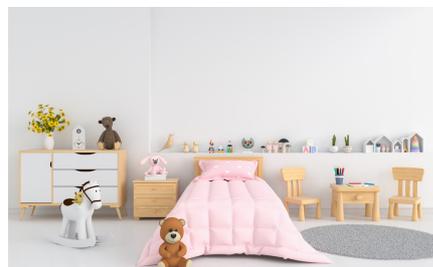
ホワイト系、上品な雰囲気に見えるグレーやブラウン系、ナチュラルな雰囲気になる木目調などがよく使われています。寒色系の色味は寒さを連想してしまうため、避けた方がいいかもしれません。



### ■ 子供部屋

子供部屋の色数はおさえることがポイント。

子供のものはどうしてもカラフルなおもちゃなどが多く、色数が多いとそれだけでごちゃついて見えてしまうからです。シンプルな色合いに差し色を加えることでおしゃれな子供部屋になります。



### ■ 寝室

寝室は1日の疲れを取る、リラックスできる空間にしたいもの。刺激が強いカラーは眠りを妨げる恐れがあるため、穏やかなカラーや落ち着いた暗めのカラーで統一させることがポイントです。穏やかなカラーや落ち着いた暗めのカラーで統一させることがポイントです。赤色は交感神経を刺激し、脳が活発になることから、寝室のベースカラーとしては避けた方がいいでしょう。赤色が好きな方は小物をアクセントとして使うなど、上手に取り入れましょう。



以上、お部屋のイメージ・ベースカラーをお伝えしましたが、お部屋の空間づくりはインテリアや小物・照明など、こだわるポイントは多岐に渡るため、自分たちのお気に入りのトータルコーディネートを見つけていきましょう。

take house

所在地：942-0071  
新潟県上越市東雲町2丁目8-26  
営業時間：平日 9時～18時

お問い合わせ先

電話番号：025-512-5688  
メール：takehouse2015@gmail.com  
担当：竹内



お気軽にご連絡ください

